

区分・種別	史跡		
名称	ゆづきじょうあと 湯築城跡		
所在地	松山市道後公園		
所有者	愛媛県外	管理団体	
指定年月日	平成14年9月20日		
解説	<p>湯築城跡は、14世紀前半に河野通盛<small>こうのみちもり</small>がそれまでの河野氏の拠点であった風早郡河野郷<small>かざはやぐんこうのこう</small>から道後の地に移って築いたといわれている。築城に関する文献は残っていないが、河野郷の居館が寺<small>ぜんおうじ</small>（善応寺）になった時期や、忽那家文書<small>くつな</small>の記述などから遅くとも建武年間（1334～1338年）には築城されたと推定される。</p> <p>河野氏は細川氏との戦いに敗れ、湯築城も一時占領されていた時期があったが、守護職とともに湯築城を奪い返し、戦国末期まで伊予国守護としてその地位を受け継いでいった。しかし、近隣諸国から幾度となく攻撃を受けたり、惣領職の継承をめぐる分裂や家臣の反乱が繰り返されるなど、その地位は決して安泰ではなかった。</p> <p>天正13（1585）年全国統一を目指す羽柴<small>はしば</small>（豊臣）秀吉の命を受けた小早川隆景<small>こばやかわたかかげ</small>に湯築城は包囲され、河野通直<small>こうのみちなお</small>は降伏し、やがて湯築城は廃城となった。</p> <p>昭和63（1988）年から12年間におよぶ埋蔵文化財発掘調査を実施したところ、道路、溝、礎石遺物、土塀、円形石積、池などの遺構が検出され、土師質土器や輸入陶磁器、国産陶磁器などの土器類や武具、建築用具の金属製品など多種多様な遺物が約25万点あまり出土している。</p> <p>また、遺構の分布状況から湯築城が家臣団の居住区、庭園区、上級武士の居住区などに分かれ、機能を分担していたことが明らかになっている。</p>		

